



今年はじめごろから“新型コロナウイルス”のせいで、普段通りの生活が送れなくなってしまっている。都市部と比べると緩さはあるが、なんだか気持ちが晴れない。

地元での生活も板についたところで、悠々と東京をはじめその他県外に出掛ける予定を色々と立てていたのだけれど、ほとんどキャンセルせざるを得ない状態に。長岡花火をはじめ様々な行事が取りやめとなり、季節の区切りが感じられず、寂しい限りだ。

新型コロナウイルスを契機として、「都市から地方へ」「地方を見直す」という言葉をしばしば耳にするようになった。この状況下で今も都会で暮らしていたらと想像すると、戻ってきて良かったと、私

は思う。東京組の友人と、SNS でやり取りしたり、オンライン飲み会などで話したりしていると、「都市部にいて良かった」とのコメントは今は出てこない。こちらも掛ける言葉が見つからない。

都市部、地方、それぞれの良さがあると言われる。その定義は時々、または時代によって変化するようだ。それを考える人が置かれた状況や、歩もうとする人生によっても捉え方は違って来るようだ。

私事だが、今秋新しい家族を迎えることになる。

私は人生の多くを地元で家族や友人と過ごしたいという思いから、大学時代と社会人生活のはじめを過ごした東京を後にした。地元で腰を据えて、地元のコミュニティーに溶け込んで日々を楽しみながら生活しているが、自分の子どもはどんな将来を描くだろうか。かなり気が早いがこんなことを考えたりするようになった。

今年 33 歳になる自分。当たり前だが、33 年後を歩む子どもに対して、どんな未来を見させてあげられるだろうか。夢や目標に向かって自由に、どこでも行ってくれと親として思うと同時に、この長岡の地が「帰りたい場所」であり続けるよう力を尽くしたい。

U ターン 6 年目。新たな目標ができた。日々是好日。